

資料

過去3年間（平成22-24年度）における生物（動物関係）に関する問い合わせ状況

中島 淳・石間妙子・須田隆一

当所で窓口依頼検査以外で回答した動物に関連する問い合わせの内容について概要をまとめた。電話や持ち込みによる質問は平成22年度が24件、平成23年度が24件、平成24年度が57件であった。問い合わせは県庁各課・保健福祉環境事務所等の県機関からのものが42件、次いで一般県民からのものが22件、民間業者（衛生害虫関係）からのものが19件であった。その内容は不明種の同定依頼が53件で、次いで特定外来生物であるセアカゴケグモ疑い種の同定依頼が35件となっていた。セアカゴケグモ疑い種の同定依頼は平成22年度、23年度がそれぞれ1件であったのに対して、平成24年度は33件と著しく増加した。

[キーワード：衛生害虫、ペストコントロール、オオヒメグモ、マダラヒメグモ]

1 はじめに

当所では窓口依頼検査として生物同定検査を実施しているが、それ以外にも日常的に電話や持ち込みによる生物に関する問い合わせに答えることが多い。本報では平成22-24年度にかけて寄せられた質問のうち、動物に関連するものについてその内容をまとめた。

2 方法

動物に関連する各問い合わせについて、依頼元を県、市町村、民間業者（衛生害虫関係）、民間業者（その他）、一般県民、その他の5つに区分した。また、質問内容については不明種同定依頼、衛生害虫に関する質問、希少種・外来種に関する質問、セアカゴケグモ疑い種の同定依頼、その他の5つに区分して整理した。

3 結果及び考察

表1に過去3年間の月ごとの問い合わせ件数を示す。平成22年度は24件、23年度は24件、24年度は57件であった。

表2に各年度における問い合わせの依頼元と件数を示す。問い合わせは県関係機関からのものが最も多く、次いで一般県民、民間業者（衛生害虫関係）の順であった。県機関では保健福祉環境事務所からの問い合わせが多かったが、ほぼすべての場合において所管市町村あるいは県民からの質問の仲介であった。一般県民からの質問では住居あるいは敷地内でみられた生物種の名前を知りたいという内容のものが多かった。民間業者（衛生害虫関係）では、駆除等を実施する上で大まかに何の種類かを知りたいと

表1 各年度における月ごとの質問件数

| 月 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 |
|----|--------|--------|--------|
| 4 | 2 | 1 | 0 |
| 5 | 1 | 2 | 6 |
| 6 | 5 | 6 | 7 |
| 7 | 6 | 0 | 1 |
| 8 | 4 | 2 | 1 |
| 9 | 2 | 4 | 11 |
| 10 | 3 | 4 | 8 |
| 11 | 0 | 2 | 9 |
| 12 | 0 | 0 | 6 |
| 1 | 0 | 1 | 2 |
| 2 | 1 | 2 | 2 |
| 3 | 0 | 0 | 4 |
| 計 | 24 | 24 | 57 |

表2 各年度における質問の依頼元ごとの件数

| 依頼元 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 計 |
|--------------|--------|--------|--------|----|
| 県 | 6 | 5 | 31 | 42 |
| 市町村 | 2 | 3 | 6 | 11 |
| 民間業者（衛生害虫関係） | 9 | 6 | 4 | 19 |
| 民間業者（その他） | 5 | 2 | 2 | 9 |
| 一般県民 | 2 | 8 | 12 | 22 |
| その他 | 0 | 0 | 2 | 2 |

表3 各年度における内容別の質問件数

| 質問内容 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 計 |
|---------------|--------|--------|--------|----|
| 不明種同定依頼 | 20 | 15 | 18 | 53 |
| 衛生害虫に関する質問 | 1 | 1 | 0 | 2 |
| 希少種・外来種に関する質問 | 2 | 5 | 1 | 8 |
| セアカゴケグモ疑い | 1 | 1 | 33 | 35 |
| その他 | 0 | 2 | 5 | 7 |

いう内容のものがほとんどであった。

表3に各年度における質問内容別の件数を示す。名前のわからない生物の同定依頼が最も多く、次いでセアカゴケグモ疑い種の同定依頼、希少種・外来種に関する質問が続

いた。

不明種の同定依頼は住居あるいは敷地内に発生した種の名前を知りたいという内容のものが大部分で、タバコシバンムシ(図1)、ヒラタチャタテ属の一種、ヤマナメクジ、オオマリコケムシ(図2)については同様の質問が複数回寄せられた。

特定外来生物であるセアカゴケグモ疑い種の同定依頼は平成22年度、23年度はそれぞれ1件で平成24年度に33件と急増した。これは福岡市周辺でセアカゴケグモの大発生が報道されたことに関連して、一般県民や市町村の注意が向けられたことによるものと考えられる。セアカゴケグモ疑い種として質問があった35件のうち、実際にセアカゴケグモであったのは14件で、その他はキクヅキコモリグモ、マダラヒメグモ、オオヒメグモ、ハンゲツオスナキグモ、ムナグロヒメグモ、ジョロウグモ、イエオニグモ、コゲチャオニグモ、アシダカグモ、コハナグモ、ゴホントゲザトウムシ、ヨコヅナサシガメであった。このうちマダラヒメグモ(図3)とオオヒメグモ(図4)はそれぞれ5件の問い合わせがあり、福岡県内ではこれらがセアカゴケグモと間違われやすい種であると推察される。なお、マダラヒメグモは外来種である¹⁾。

希少種・外来種に関する質問としては、ホタル類の生息場の管理の仕方や、特定外来生物ウシガエルの駆除法を知りたいといった内容のものがあつた。

専門機関としての当所に持ち込まれるこれらの問い合わせは、県下で実際に起こっている生物に関する問題の現状を知る機会にもなりうるので、今後も記録を集積していきたいと考えている。末筆ながらクモ類の分類についてご教示いただいた(独)農業環境技術研究所の馬場友希博士にこの場を借りてお礼申し上げる。



図1 タバコシバンムシ(体長約2 mm)



図2 オオマリコケムシ(直径約300 mm)



図3 マダラヒメグモ(体長約5 mm)



図4 オオヒメグモ(体長約7 mm)

文献

- 1) 新海栄一：ネイチャーガイド日本のクモ，文一総合出版，2006.